

大雪及び寒害に伴う農作物等の技術対策情報

I 大雪及び寒害に関する情報について

仙台管区気象台の東北地方週間天気予報(平成30年12月26日16時39分発表)によれば、向こう一週間、冬型の気圧配置が続くため、太平洋側は曇りや晴れですが、期間のはじめは雪の降る所がある見込みです。また、最高気温・最低気温ともに、平年並か平年より低く、期間のはじめはかなり低い所もあることが予想されています。

今後、大雪及び寒害による農作物等への影響が懸念されますので、注意願います。

II 農作物等の技術対策

1 共通事項

人命第一の観点から、ほ場や農業用施設の見回り等については、気象情報を十分に確認し、大雪や吹雪等の悪天候時には行わない。また、大雪等が治まった後の見回りにおいても、次の点に留意しつつ、転落、滑落事故に遭わないよう慎重に行う。

- (1) ほ場や農業用施設周辺で、段差がある場所や用水路等がある場所には近づかない。
- (2) 見回りをする際には一人では行かない。
- (3) ハウスや高所での除雪作業は、命綱などの転落防止対策や複数人で作業を行う。
- (4) 倒壊のおそれのある施設等には近づかない。

2 果樹

- (1) 積雪の多い地域においては、早期のせん定、支柱等による枝の補強、果樹棚の補強に努める。特に幼木や改植後まもない若木については、結束して樹冠を縮める、支柱により接木部を補強する等の対策を講じる。
- (2) 積雪時の野そ被害を低減するため、樹幹へのプロテクター等の巻きつけ、忌避剤の塗布や散布、殺そ剤の投与等の対策に努める。
- (3) 安全が確保できる範囲で、樹園地を見回り、除雪を行う。
- (4) 雪に埋まった枝は沈下しないうちに可能な限り掘り起こす。掘り起こしが困難な場合は、スコップで雪に切れ目を入れたり、樹冠下の雪踏みを行う。
- (5) 落葉果樹では、凍害のおそれがある場合には、主幹部への白塗剤の塗布、わら巻き等の防寒対策を行う。

3 施設(野菜・花き等)

- (1) 加温設備がある場合は、可能な範囲で室温を高めてカーテンを開放し、屋根面を温めて屋根雪の滑落を促進する。また、寒害対策として、ハウスの被覆資材の破れや隙間の点検、補修等により、保温性向上に努める。
- (2) 大雪時に備え、応急補強用の支柱、筋交いなどを棟部を中心に取り付ける。基礎の沈下を防ぐため、谷樋からのオーバーフロー防止対策を講ずる。
- (3) 除雪を行う場合は、ヘルメット等をかぶり、滑りにくい履物を履くなどし、複数人で作業を行うなど安全確保に努める。
- (4) 耐雪強度を超えた積雪があった場合は、倒壊の恐れがあるので、ハウスには近づかないようにする。また、ハウスの片側だけ太陽光が当たったり、風によって積雪が偏ったりすると、ハウスのバ

ランスが崩れ、倒壊する危険性があるので十分に注意する。

- (5) 屋根への積雪が確認できる場合は、施設倒壊の可能性があるので、内部への進入は控え、降雪が収まった後、施設倒壊の恐れがなくなったら、施設各部の損傷や被覆資材の緩み等を点検する。
- (6) 屋根・軒下・ハウスの間に積雪がある場合は、次回の降雪に備えて直ちに除雪する。
- (7) 停電になり電気が復旧したら、天窓やカーテンなどが正常に作動するか確認する。
- (8) 外気温が低い時期には施設内が多湿となり、病害発生に好適な環境となり得るため、低温障害を受けないよう留意しながら、十分な換気を行う。また、病害が発生した場合には、速やかに防除を実施する。

4 育苗用施設

育苗用施設（特にパイプハウス）の積雪による破損や倒壊は、積雪深がパイプハウスの肩部を超えると被害が多くなることから、作業の安全を確保した上で、除雪等を適宜実施し、施設の保護に努める。

5 畜産

- (1) 畜舎等の施設の点検を行い、老朽化等により倒壊のおそれがある場合は必要に応じて補強等を行うとともに、屋根の雪下ろしを適切に実施する。
- (2) 畜舎の周囲等農場内の除雪を行う。特に、飼料運搬車等の車両通行を確保するために農場内の道路の除雪を行う。
- (3) 雪による交通遮断等の非常事態に備え、飼料等の資材の在庫状況を適宜確認し、必要に応じて補充する等事前の準備を行う。
- (4) 酪農家・肉用牛農家では、低温や積雪により畜舎を閉め切ることが多くなると、畜舎内のアンモニア濃度が高まるなど、畜舎の環境が悪化するおそれがあることから、十分な換気を行う。
- (5) 水抜き栓を抜いたり凍結防止ヒーターを活用する等水道の凍結防止対策を行う。

6 麦類

融雪水の停滞により、湿害が発生しやすくなることから、排水路の詰まり等の点検・補修、春先の溝切り等により排水対策を徹底し、湿害の防止に努める。